



賀露みなと公園

賀露みなと公園には、賀露の歴史を物語る4つのモニュメントが設置されています。それぞれのモニュメントの近くには賀露の歴史を記した看板も設置され、港の風景と調和したゾーンとして整備されています。

静かな公園で、海を眺めながら、先人達の夢を思い浮かべてみるのも楽しいかもしれません。



囲碁モニュメント・ゾーン

賀露神社の社伝によれば、天平勝宝6(754)年、遣唐副使吉備真備公が中国(唐)から帰国する際、風浪の難にあって九州沖から流され、賀露の沖に漂着されたと伝えられています。

真備公は唐の優れた文化を日本にもたらした学者です。囲碁、日時計の請来も吉備公によるものと伝えられており、このゾーンには真備公の偉業を称える囲碁と日時計のモニュメントが設置されています。

囲碁は「詰碁問題」になっているそうですので、挑戦してみてくださいはいかがでしょうか。



灯台モニュメント・ゾーン

賀露は古くから日本海と国府・鳥取城を結ぶ海上交通の要地として重要視されてきました。また、江戸時代から明治時代にかけて日本海海運で活躍した北前船の寄港地でもあります。

海に浮かぶ鳥ヶ島は高さ約26m、周囲約400mの小さい島ですが、鳥取港の西側に位置し、その頂上には白亜の灯台がそびえ、船の安全を守ると同時に賀露のシンボルとして住民に親しまれています。



北海道開拓マップ・ゾーン

明治維新後貧困に苦しんだ鳥取士族は、明治 17(1884)年、鳥取県の主導により北海道へ移住しました。これを契機に、大正時代末までにおよそ 7200 余戸、27000 余名が渡道しました。明治 17(1884)年に開村した鳥取村は昭和 18(1885)年に鳥取町となり、同 24(1891)年釧路市と合併しました。

北海道開拓マップには、移住地や移住先での主な仕事が記されています。



イタヤ貝モニュメント・ゾーン

鳥取県を代表する民謡の一つに貝殻節があります。貝殻節は辛いイタヤ貝漁を唄った労作歌で、賀露では「ホーエンヤ節」として現在も運動会や文化祭などで唄い継がれています。

このゾーンは、海底をイメージした砂地に 3つのイタヤ貝のモニュメントが並んでいます。それぞれのモニュメントには、賀露みなと公園が整備された平成 15(2003)年当時の賀露小学校の生徒が描いたイラストが貼られています。イラストは貝や魚などの海の生物や、日本海の大波や海に浮かぶ虹をイメージした力強い作品となっています。

